

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000028		
法人名	医療法人 常念会		
事業所名	グループホーム もみじ フジ		
所在地	愛知県豊橋市大村町字山所77番地		
自己評価作成日	平成27年1月16日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosyoCd=2392000028-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成27年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームで安心して穏やかに暮らしていけるように、入居されている方だけでなくスタッフも一緒に楽しく日々を過ごせる事を目標にしています。利用者一人ひとりの思いをケアプランに取り入れながら地域社会との結びつきを大切に、楽しみや活気のある、その人らしい生活が送れるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、老健に併設されていることで、利用者の夜間の救急搬送や非常災害時の迅速な避難誘導が円滑に行える体制が整えられている。日常的にも老健の看護師による健康面でのチェックが行われており、利用者、家族にとっては、安心できる体制でもある。ホームの母体は医療機関であるが、日常的な利用者への訪問診療については、母体の医療機関以外の複数の医療機関とも連携しており、利用者一人ひとりの症状に合わせた支援が行われている。また、地域の方にに向けた行事も前向きに取り組まれており、併設の老健との合同で開催した行事の際には、多くの地域の方の参加が得られており、地域の方にグループホームを知ってもらう機会にもつながっている。運営推進会議についても、多くの地域の方の出席が得られており、定期的な情報交換の機会につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念を掲示してありいつでも確認できるようにしてある 日頃より理念について振り返り再確認をするようにしている	介護の専門職者であることを掲げた理念を基本にしながら、職員会議等を通じて理念についての振り返りも行われている。理念については、ユニット毎に掲示を行っており、職員への周知と振り返りの機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事に積極的に参加する事で近隣住民と交流をはかっている 利用者と共に回覧板を回すなど日頃より交流の場を持てるようにしている	ホームは町内会に入り、回覧板を利用者と一緒にまわす等、地域の方との日常的な交流につなげている。また、中学生の体験学習の受け入れの他、併設の老健との合同の行事の際には、多くの地域の方の参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の学生ボランティアを受け入れ認知症についての理解やグループホームでの生活を体感してもらっている 運営推進会議でも地域の方に認知症に対する理解を深めてもらうよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域自治会長、民生委員、介護相談員などに参加して頂き活動の報告とともに意見交換の場として活用している 会議の場だけでなく実際にホーム内で利用者、スタッフとの交流会を行うこともある	会議には多くの地域の方の出席しており、ホームの運営状況を行いながら、ホームへの理解を深めてもらっている。会議を通じて、老健とグループホームとの取り組みの違い等を理解してもらうように取り組んでいる。	現状、家族の参加が難しいこともあるため、会議の内容を報告していく取り組みや、無理のない範囲で家族に参加への働きかけを継続されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護相談員派遣事業などを通して運営について意見交換を行っている 議事録の持参などで定期的な訪問を行い情報交換に努めている	管理者は、運営推進会議に関する報告を市の担当部署に直接行っており、必要な情報交換等につなげている。また、市の介護相談員がホームに訪問したり、運営推進会議への出席等への協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全に配慮をし玄関など一部は施錠がしてあるが施設内は自由に動けるよう配慮し、可能な限り行動の制限はしないよう努めている	ホームは、身体拘束を行わない方針のもと、利用者への見守りを行いながら、家族との話し合いも行われている。ユニット毎に施錠が行われているが、利用者の様子を察しながら外に出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ会議や外部での研修を通し虐待について学ぶ機会を持ち、スタッフ間でも話し合い常に意識をすることで虐待の防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ会議の場で制度について知識を深めるよう努めている 外部の研修などでも学ぶ機会があれば参加していきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には不安や疑問点が残らないように互いの意向についても話し合うよう努めている 変更事項がある場合にはその都度説明する場を設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	本人、家族が意見や要望を伝えやすい関係作りを意識しそれらを運営に活かせるよう努めている	ホームの行事の際には、家族にも案内を行っており、交流につなげている。ホーム管理者との面談の他にも、併設老健の事務室も窓口になっており、意見を言える仕組みづくりにも取り組んでいる。また、毎月のホーム便りの発行が行われている。	ホームでは、利用者一人ひとりの希望を反映した取り組みも行われていることもあるため、個別の報告書や便り等の取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃からスタッフ間や管理者との意見交換をし易い環境作りに努め運営に活かせるようにしている	毎月の職員会議の他にも、毎週カンファレンスの時間が設けられており、職員間の意見交換の機会がつけられている。管理者は、現場職員の意見等を把握し、法人の会議の場にも反映するように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人として福利厚生制度(永年勤続、旅行補助金等)を設け職員がやりがいを持って働ける環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加や資格取得に対する支援制度がある他、法人全体での勉強会の機会なども設けられている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症GH連絡協議会に入会しており定期的な会議で意見交換のほか、行事や研修にも参加し交流する機会を設けている 他のGHの行事へ参加をする事で入居者、スタッフ間でも交流をする機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前より情報収集し出来る限り本人、家族の意向に沿って安心して過ごせるよう支援している 情報はスタッフにも事前に伝えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前よりしっかりと話を聞くようにし家族と一緒に考える事を重ねる事で不安を一つずつ取り除き、信頼関係を築いていけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が求められているかを判断し必要としているサービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として敬い生活の一部を共にする事で家族のような信頼関係を築いていけるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃より近況報告をし一緒に話し合う事で共に支え合っているような関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	訪問し易い環境作りを心がけ、面会時には一緒に時間をゆっくりと過ごしていただけるよう配慮している 本人の馴染みの人や場所とも関わりを継続していけるよう支援に努めている	利用者の馴染みのある方との交流を継続したり、馴染みの場所への外出の機会をつくるように取り組んでいる。また、受診等と合わせて、家族との外出や買い物で外出したり、自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士がお互いに助け合い支え合えるような支援を心がけている コミュニケーションが上手く取れなくても孤立してしまわないようスタッフが間に入り良好な関係が築けるよう配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了後でもボランティア活動で訪問して下さる方もおり良好な関係の維持に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向や希望、担当スタッフの意見などもケアプランに取り入れるようにしており計画作成の際も個別ケアの充実化を意識し取り組んでいる	職員は担当制も活用しながら、好きなことをしてもらおう等、利用者一人ひとりの意向等の把握に取り組んでいる。職員が把握した情報等は、毎週のカンファレンスの機会にも話し合わせ、職員間の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報、本人との会話の中などから情報を収集し生活歴を把握することでホームで充実した生活を送ってもらえるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	顔を合わせコミュニケーションを取る中で、その日の本人の状態や小さな変化にも気付けるよう努めている 情報はカルテ、引き継ぎノートなどにも記録に残すようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族の意向を伺い、スタッフ間で話し合い本人が楽しめるプランが提供できるよう努めている	介護計画の内容については、利用者の変化にも合わせながら、基本3か月毎に見直しを行っている。担当制も活用して日常的なチェックを行い、モニタリングについても3か月毎に計画作成担当者により行われており、家族との話し合いも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の生活を記録に残し、いつでも振り返れるようにしている 変化があった場合には支援の方法をスタッフ間で話し合い見直すようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	事業所内、各部署と連携協力を図り可能な限りニーズに対応しようと努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの受け入れ、地域行事への積極的な参加により社会とのつながりを大切にするようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	定期的な主治医の往診にて常に健康管理ができる体制にある 小さな変化でも報告、相談をするようにしている	ホームでは、母体の医療機関の他にも複数の医療機関と連携しており、利用者の状態等に合わせた医療面での支援が行われている。また、併設の老健に看護師が勤務しており、ホームの利用者の健康チェックや体調不良等の対応も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃より利用者の健康状態を報告しており、変化があった場合には相談、指示をもらう体制ができている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーと口頭で情報の提供を行っている 家族、病院と連携を図りその後の支援に繋がるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の段階より家族、スタッフと終末期のケアのあり方について話し合い 家族、主治医とも連携を取り可能な限り終末期のケアにも対応できるよう努めている	重度の状態になっても可能な限り、ホームでの生活が継続できるように、医療面の支援も含めた対応が行われている。家族とは、ホームでの生活や老健等への移行についても話し合われており、ホームでの看取り支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業内での勉強会でも学ぶ機会があり緊急時には対応マニュアルに沿って実践できるよう心掛けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な訓練、施設内チェックを行っている 災害対策委員会では毎月1回災害時の対応や必要物品の備蓄について協議を重ねている	避難訓練は、併設の老健との合同でも実施しており、双方の夜勤者が連携した訓練も行われている。地域の方との連携についても話し合いが行われており、相互の協力関係に取り組んでいる。また、備蓄品については、老健に確保されている。	地域の災害訓練にホームからも参加する意向でもあるため、今後の実現に期待したい。また、ホームの構造上、出入り口が限られているため、緊急時の対応について、職員への継続した周知を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重し失礼の無いように、思いやりのある言葉掛けをするように心掛けている	職員は、利用者が一人ひとり違うことを踏まえながら対応するように管理者より伝えられ、気になる際には、注意を促している。また、接遇に関する研修会の機会もつくり、職員の振り返りの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が言い易い伝え易い環境作りを心掛けており本人の言動から思いが汲み取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望や要望に沿いその人らしくマイペースで生活が送れるような支援を心掛けている 無理強いはずせこちらのペースにならないようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個人の好みを尊重しながらおしゃれを楽しめたり生活に張り合いが持てるような支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の嗜好を把握し楽しんで食事をして頂けるよう努めている 一緒にメニューを考えたり作ることや発話や笑顔も増えコミュニケーションが弾む場となっている	食事は、ホーム内での調理と併設老健の厨房からの提供が行われており、ホームでの調理の際には、利用者の参加もある。日常的におやつ作りを行ったり、行事食の取り組みも行われている。また、身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の健康状態に合わせ食事や水分の味や量を調整し体調管理に気配りをしている 摂取量が少ないと感じる方には飲み物を変えたりこまめに提供したりもしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを実施している 月に2回 歯科衛生士による口腔ケア指導を受けて指示をもらい健康管理に役立てている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表に記録を残し状況を記録することで個人の排泄パターンなども把握しその方に合った支援が行えるよう取り組んでいる 車イス使用の方でも介助にてトイレで排泄が行えている	利用者毎に排泄チェックを行いながら、トイレでの排泄を目指し、重度の方には複数の職員での介助も行われている。布パンツでの生活を維持したり、便秘等への対応には、医療面での連携も行いながら、排泄状態の改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や水分摂取を働きかけ便秘予防に努めている 服薬についてはDrに相談、指示の元排便のコントロールを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	一人ひとりのペースでゆっくりと入浴を楽しんでもらえるよう心掛けている 希望に応じた足浴も行っている	ホームでは、利用者の希望にも合わせ、毎日の入浴も可能である。重度の方には、老健の機械浴の利用も可能であるが、職員複数での介助でホームで入浴している方もいる。また、季節に合わせた入浴やホーム外のお風呂を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活のリズムを考慮し自由に休んでもらっている 夜間眠れない方には安眠できるまで寄り添ったり、傾聴を行うようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬情報はカルテに綴じてありいつでも確認がとれる 情報の把握、確認をする事で服薬時のミスがないように努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	普段の会話の中より本人の楽しみ、やりたい事などの情報を得て支援につなげている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	季節や天候に合わせて日常より散歩や買い物など積極的に外出をするようにしている 家族の協力を得て身内のお見舞いや、お墓参りにも出かける方もいる	ホーム周辺の散歩が行われており、利用者が外に出る機会をつくっている。季節に合わせた花見や公園への外出行事も行われている。また、ホームの重点目標として、「個別ケアの充実」があり、一人ひとりの希望に合わせた外出にも取り組んでいる。	ホーム全体での外出が少ない現状あり、個別の希望に合わせた外出支援に取り組んでいる。家族とも連携する等、継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	外出、買い物時に購入希望のある方は預かっている金銭より自己にて支払う事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持ち家族と自由に連絡を取られる方もいる ホームに家族から電話がかかってきた時にお喋りを楽しんでいらっしゃる方もいる 年賀状や季節の挨拶状なども出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアには季節に応じた飾り付けをしている 室温、光、音など利用者が過ごし易いと感じられるような環境づくりに努めている	ホーム3階のユニットから老健につながる通路に広いスペースがあるため、利用者の憩いの場所にもなっている。また、リビングはユニット毎に飾り付け等を考えており、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースの中でもソファで独りになれたり 気の合う方たちが一緒に過ごせるようフロア座席にも配慮している 事務所のイスで過ごす事を好まれる方もいて思い思いに過ごして頂けるよう努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物、使い慣れた物を取り入れて心地よく過ごして頂けるようにしている 居室に昔の写真や家族の写真、家族からの手紙などを飾られている方もいる	居室には収納スペースが設置されてあることで、車椅子の方も広く利用することができる空間であるため、居室内にタンス類を複数設置している方もいる等、思い思いに居室づくりを行っている。また、家族の写真等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全に配慮をした物の置き方、迷ってしまうような動線づくりなどで可能な限り自立した生活が送れるよう努めている		